

平成 28 年 5 月 25 日（水）に開催した平成 28 年度第 1 回公立大学法人静岡文化芸術大学経営審議会の結果は次のとおりである。

1 協議事項

第 1 期中期目標（平成 22～27 年度）期間実績及び平成 27 年度実績（案）について

ア 趣旨

第 1 期中期計画及び年度計画に基づいて平成 22～27 年度の 6 年間に実施した教育研究活動、学生支援、地域貢献並びに国際交流等の各事業の主要な実績について、その意見を求める。

イ 主な意見

- ・評価項目が多く、大学にとっての重要度が見えにくい。自己評価に関わらず、改善すべき点があれば、PDCA サイクルを活用するなど積極的に対応していく必要がある。
- ・中期計画に掲げられた項目が教育の成果に結び付いたかという視点が重要である。また、内容によっては他大学との比較の中で考えることも重要である。
- ・各大学の教育内容、学部構成等により、評価項目数は変わってくる。また、自己評価は、自ら実施した事業内容に対する評価のため、付け方は難しい面がある。
- ・教育した成果、学生がどれだけ伸びたかが、TOE I C スコア等の数値で挙げられると、実績がわかりやすい。

2 報告事項

(1) 平成 28 年度入学者選抜結果について

事務局から、昨年度に比較して、文化政策学部の国際文化学科及び文化政策学科で志願者数が増加したが、その要因としては、地域連携型の学びへの注目度が高まっていることに加え、前年度入試で志願倍率がそれほど高くなかったため、今年度は志願者の人気が高くなる、いわゆる隔年現象による面も考えられ、次年度入試では逆に受験生が敬遠し志願者数が減少する恐れがあるため、広報活動に力を入れていくとの報告があった。併せて、県内外比率、男女比率については、昨年度とほぼ同様であることが報告された。

(2) 平成 27 年度就職状況について

事務局から、平成 27 年度卒業生（平成 28 年 3 月卒業）の就職率は昨年度と比べ若干下がったが、人数では数名の差によるものであり、ほぼ例年並みであること、就職先の県内外比率（本社所在地による）では、県外就職が県内就職を上回っているが、公立大学法人化以降、県外からの入学者が増え、在学生の県外出身比率が高くなっており、就職先の県内外比率は出身地の比率とほぼ同じ状況になっていることが報告された。

以上により議事を終了した。